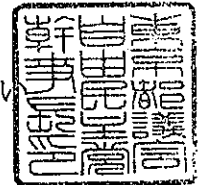


平成28年8月29日

東京都住宅供給公社  
理事長 安井 順一 殿

東京都議会自由民主党  
幹事長 高木 けい



### 公社賃貸住宅ストックの有効活用に係る要望

住宅は生活の基盤であると同時に都市を形づくる基本的な要素であり、「東京を世界で一番の都市に」していくためには、東京に暮らす全ての方々が豊かな住生活を実現することが不可欠である。

東京都住宅供給公社は、戦後の復興期や高度経済成長期に深刻な住宅不足を解消するため、中堅所得者向けに良質な賃貸住宅を供給してきた。現在では建設年代が古く更新時期を迎えた団地の建替えを進めるとともに、少子高齢化が進む中、創出した用地を活用し福祉施設等の整備を促進するなど、都民の住生活において重要な役割を果たし、都の住宅政策を支えてきた。

一方で、公社賃貸住宅ストックの約半数が築40年を超えている状況にある。住まいに対するニーズは時代とともに変化しており、建替えに着手するまでに期間のある住宅などについては、建物の耐震性の確保や計画的な大規模修繕はもとより、住戸内についても現在の居住ニーズに対応した改善を図り、公社住宅ストックを有効に活用していくことが重要と考える。

については、豊かな住生活の実現に向け、都民の貴重な公的資産である公社住宅の価値を維持し、引き続き良好なストックとして供給されるよう、下記について検討・実施されることを要望する。

#### 記

- 1 空家となった期間を活用して、室内の間取りの変更や内装・設備の改修など居住性の向上に努め、子育て世帯や若年世帯等のニーズに対応した魅力ある住宅を供給すること。
- 2 居住中の住戸についても、良好なストックとして維持していくため、現場の様々なニーズや要望を丁寧に取り上げ、適切な家賃負担のもと、公社自らが浴槽・給湯設備の改善など必要な性能・機能の向上を図ること。